

# 特集 風水害から身を守るために

# 避難行動

## を確認しよう!



これから梅雨や台風の時季を迎え、水害や土砂災害が発生しやすくなります。近年は気候変動の影響もあり、全国各地で予想を超える豪雨や大型台風による被害が発生しています。

水害や土砂災害から自分や家族の命を守るため、いつ災害が起こっても慌てず避難行動ができるよう、ハザードマップを確認し、大雨に備えましょう。

### お問い合わせ



**危機管理課** (防災関係担当)  
TEL:0538-37-2114  
FAX:0538-32-0177



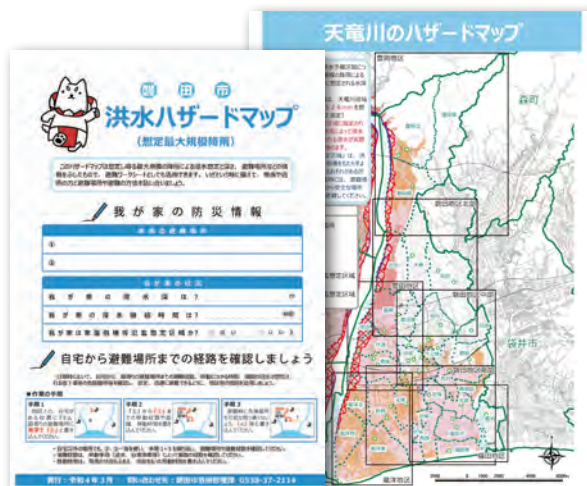
**道路河川課** (流域治水担当)  
TEL:0538-37-4993  
FAX:0538-32-3948

## STEP1 ハザードマップの確認

ハザードマップとは、大雨による河川の氾濫などの災害から、皆さんが避難する際に参考となる情報をまとめたものです。また、想定される最大規模の降雨による浸水想定と深さ、避難場所などが示されています。

令和8年1月からは、「磐田市地図情報提供サービス」にて、洪水や土砂災害などの情報提供をしています。市役所の窓口に出向いていただくなくても、デジタルハザードマップとしてお手元のスマートフォンやパソコンで閲覧することができます。

事前にご自身の住んでいる地域のハザードマップを確認して、浸水しやすい場所や崩れやすい場所を想定した避難ルートを作成をしておきましょう。



▲磐田市洪水ハザードマップ

磐田市洪水ハザードマップ  
について詳しくは▶



## STEP2 避難行動の整理

過去の災害では、「避難しなかった」「避難が遅れた」ことによる被災や、豪雨や浸水の中で避難中に被災する事例が多く発生しています。

身の回りにある災害リスク（河川氾濫、地震、津波など）を確認しておくことが大切です。「いつ」「どこに」避難するかを事前に整理しておきましょう。

### ■ 「マイ・タイムライン」

台風や大雨により河川水位が上昇する際、自分自身がどのような行動をとるかを時系列で整理した避難行動計画です。

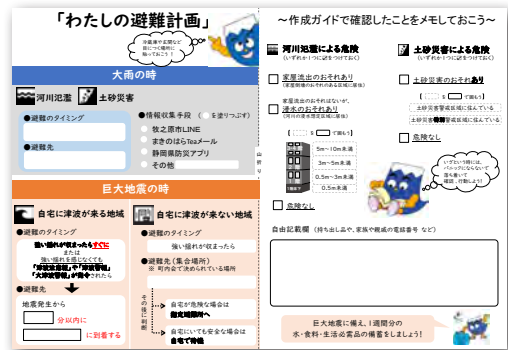
ハザードマップや作成シートを活用し、家族構成や住まいの状況に合わせた一人ひとりの避難行動を確認しておきましょう。



### ■ 「わたしの避難計画」

河川氾濫や地震・津波などの災害に備え、「いつ」「どこに」避難するかをあらかじめ整理した避難計画です。

事前に作成し、目につく場所に貼っておくことで、いざという時の迅速な避難につながります。



市ホームページ  
わたしの避難計画 / マイ・タイムライン



静岡県ホームページ  
わたしの避難計画 作成サイト



## CHECK! 市からの情報発信

大雨時には、屋外の同報無線が聞き取りづらくなる場合があります。市からの情報は、「磐田市 LINE 公式アカウント」や「いわたホットメール」を利用することで、スマートフォンで文字情報として確認できます。この機会にぜひ登録をお願いします。

避難所開設情報、避難情報、津波情報、震度4以上の地震情報のほか、土砂災害情報や河川増水時の水位情報など、防災に関する情報を確認できます。さらに、磐田市 LINE 公式アカウントのリッチメニュー「防災・災害」からは、避難所・避難施設の検索なども利用できます。

また、同報無線が聞き取れなかった場合は、電話応答サービス（☎0120-184-894）で放送内容を聞き直すことができます。

いわたホットメール  
について詳しくは▶



磐田市公式  
LINE アカウント▶



## STEP3 情報収集

### ■河川水位監視システムの活用

市内13カ所18測点の河川水位をインターネットで確認できるシステムです。水位計の情報をグラフや断面図でわかりやすく表示します。

### ■雨量情報システムの活用

市内6カ所の雨量をインターネットで確認できるシステムです。10分ごと・1時間ごとの雨量をグラフ表示し、注意報・警報情報も確認できます。

河川水位監視システム  
について詳しくは▶



雨量情報システム  
について詳しくは▶



### 気象庁から発表される防災気象情報が新しくなりました！

「河川氾濫、大雨、土砂災害、高潮」に関する情報の発表が令和8年5月28日から新しくなりました。

#### ■新しくなる主なポイント

- ・情報名称そのものに「レベル」の数字が付きます。(例：レベル4大雨危険警報)
- ・河川氾濫の危険度の伝え方が変わります。(特別警報の新設など)
- ・「警戒レベル4相当」の情報は「危険警報」として発表されます



### ■防災気象情報(気象庁などが発表)

	河川氾濫	大雨	土砂災害	高潮
警戒レベル 5相当	レベル5 氾濫特別警報	レベル5 大雨特別警報	レベル5 土砂災害特別警報	レベル5 高潮特別警報
警戒レベル4までに安全な場所に避難				
警戒レベル 4相当	レベル4 氾濫危険警報	レベル4 大雨危険警報	レベル4 土砂災害危険警報	レベル4 高潮危険警報
警戒レベル 3相当	レベル3 氾濫警報	レベル3 大雨警報	レベル3 土砂災害警報	レベル3 高潮警報
警戒レベル 2	レベル2 氾濫注意報	レベル2 大雨注意報	レベル2 土砂災害注意報	レベル2 高潮注意報
警戒レベル 1	早期注意情報			

### ■警戒レベル

高	警戒レベル	避難情報など	取るべき行動
↑ 危険度 ↓	5	緊急安全確保	命を守るため直ちに安全の確保
	警戒レベル4までに安全な場所に避難		
	4	避難指示	危険な場所から全員避難
	3	高齢者等避難	危険な場所から避難に時間がかかる人は避難
	2	大雨・土砂災害・高潮注意報	気象悪化に備え避難準備
低	1	早期注意情報	最新情報を確認し避難に備える



避難が必要な地域を対象に、市が避難情報を発表します

## STEP4 避難行動

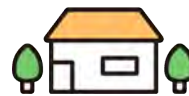
### ✓ 動きやすい服装で

動きやすい服装に着替え、歩き慣れている運動靴を履き、両手が見えるように荷物はリュックに入れ、背負いましょう。



### ✓ 安全な親戚の家なども避難先に

避難する先は市が開設する避難場所だけではなくありません。安心して過ごせる場所に避難しましょう。



### ✓ 避難とは「難」を「避」けること

安全な場所にいる人が避難場所に行く必要はありません。市からの情報などで自分が避難場所に行くべきか確認しましょう。



### ✓ 食料など必要なものは持参を

避難場所に食料などはありません。必要なものは各自で持参し避難してください。



## ■避難は3つの行動で「命を守る」

これまでの避難指示などは、自宅など現在いる危険な場所から立ち退くことを意味していましたが、周囲の状況によっては移動がかえって命に危険を及ぼしかねない場合もあることから、屋内での待避なども「命を守るための行動」の1つに加えています。

### 立ち退き避難

- ・市が指定した避難場所（指定緊急避難場所）へ移動する
- ・安全な親戚や知人の家、ホテルや旅館など自主的な避難先へ移動する
- ・近隣の高い建物などへ移動する



### 屋内安全確保

- ・建物内の安全な上階へ移動する、または上階に留まる



### 緊急安全確保

- ・洪水などのリスクがある区域などにおいては、自宅・施設などの少しでも浸水しにくい高い場所に緊急的に移動したり、近隣の相対的に高く堅牢な建物などに緊急的に移動する
- ・土砂災害のリスクがある区域などにおいては、自宅・施設などの崖から少しでも離れた部屋で待避したり、近隣の堅牢な建物に緊急的に移動する



## STEP5 日常の備え

### ■土のうステーションの活用

近年、短時間で局地的に降る大雨や、台風などによる浸水被害が発生しています。被害をできるだけ少なくするためには、行政による対応とともに、地域の皆さんにも自ら行動していただくことが重要になっています。そこで市では、大雨に備え、ご自身で土のうを作製して持ち帰っていただける場所「土のうステーション」を設置しています。

#### ご利用方法

- ①窓口で申請書を記入し、土のう袋を受け取ってください  
※1世帯につき20袋まで（無料）
- ②本庁舎や各支所の土のうステーションにてご自身で作製してください  
※荒天時や夜間における作製はご遠慮ください



土のうステーション

#### 窓口および設置場所

開庁時間の道路河川課および各支所の市民生活課  
※閉庁日は本庁舎および各支所の宿直（豊田支所は除く）

土のうステーション  
について詳しくは▶

### ■みんなで取り組む流域治水

#### 流域治水とは

近年、気候変動の影響により、豪雨による浸水被害や河川の氾濫などが激甚化・頻発化しています。こうした水災害に備えるため、堤防整備や河川改修に加え、行政・地域・企業・市民など、流域に関わるあらゆる関係者が協働・共創して被害軽減に取り組む考え方が「流域治水」です。

一人ひとりの日頃からの備えも、流域治水の重要な取り組みの1つです。皆さんで流域治水に取り組み、浸水被害の軽減を目指しましょう。

#### 流域治水の取り組み事例

##### ・雨庭の設置

雨庭とは、まとまった雨が降った際に、河川へ一気に流れ込む雨水を減らし、洪水や道路冠水を軽減するための仕組みです。

家庭の庭の一部を周囲より少し掘り下げ、砂利や碎石、透水性の高い土を敷き、雨水が地中へ浸透するようにします。これにより、河川へ流れ込む雨水の量を抑えることができます。



雨庭

##### ・調整池の設置

調整池は、大雨時の雨水を一時的にため、下流へ流れる水量を調整することで、河川への負担を軽減し、浸水被害の防止につなげる施設です。



調整池

みんなで取り組む流域治水  
について詳しくは▶